

自八月朔日到十七日

以洛其八年三月十日



父久三年癸亥上洛日記

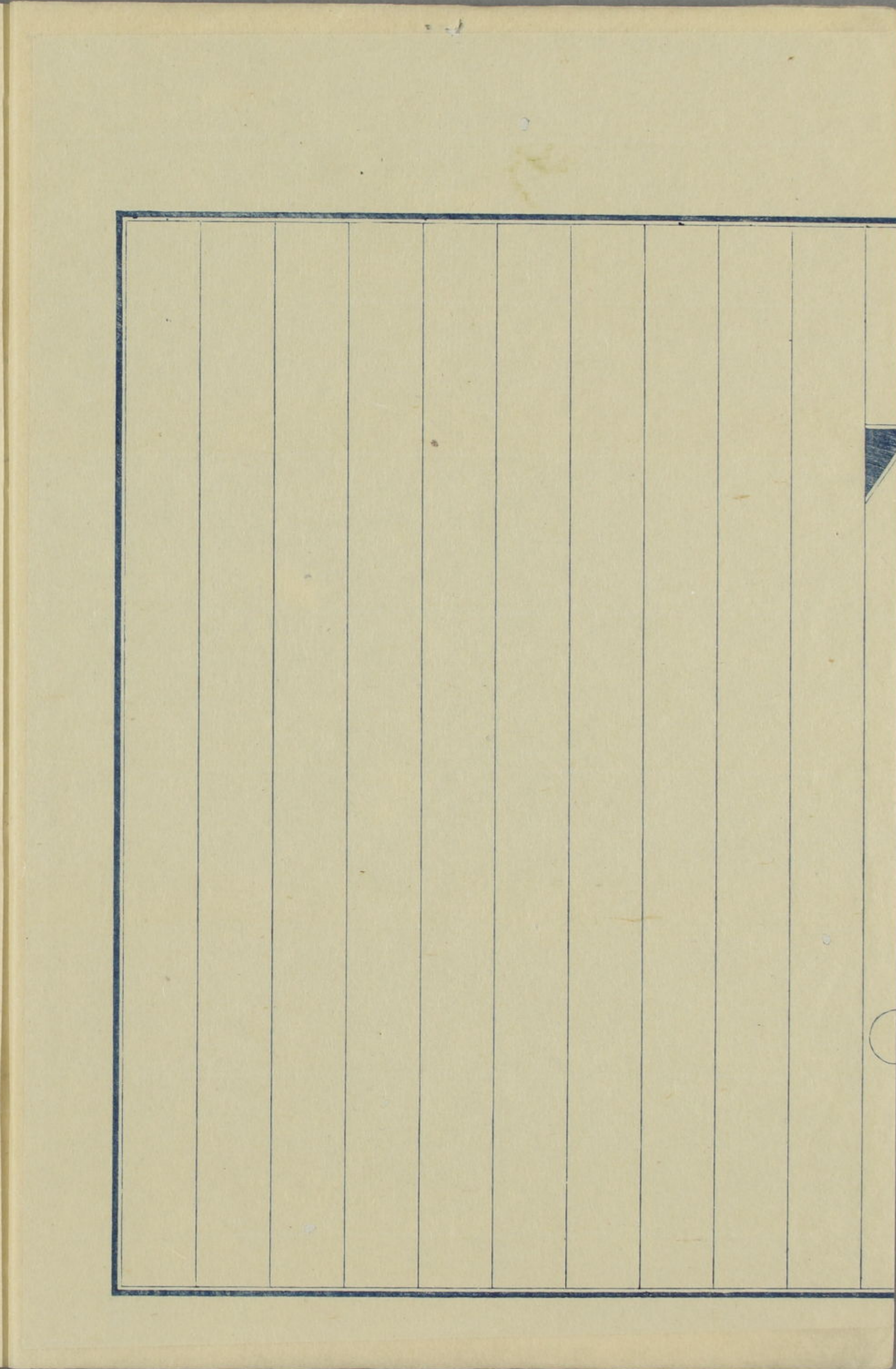
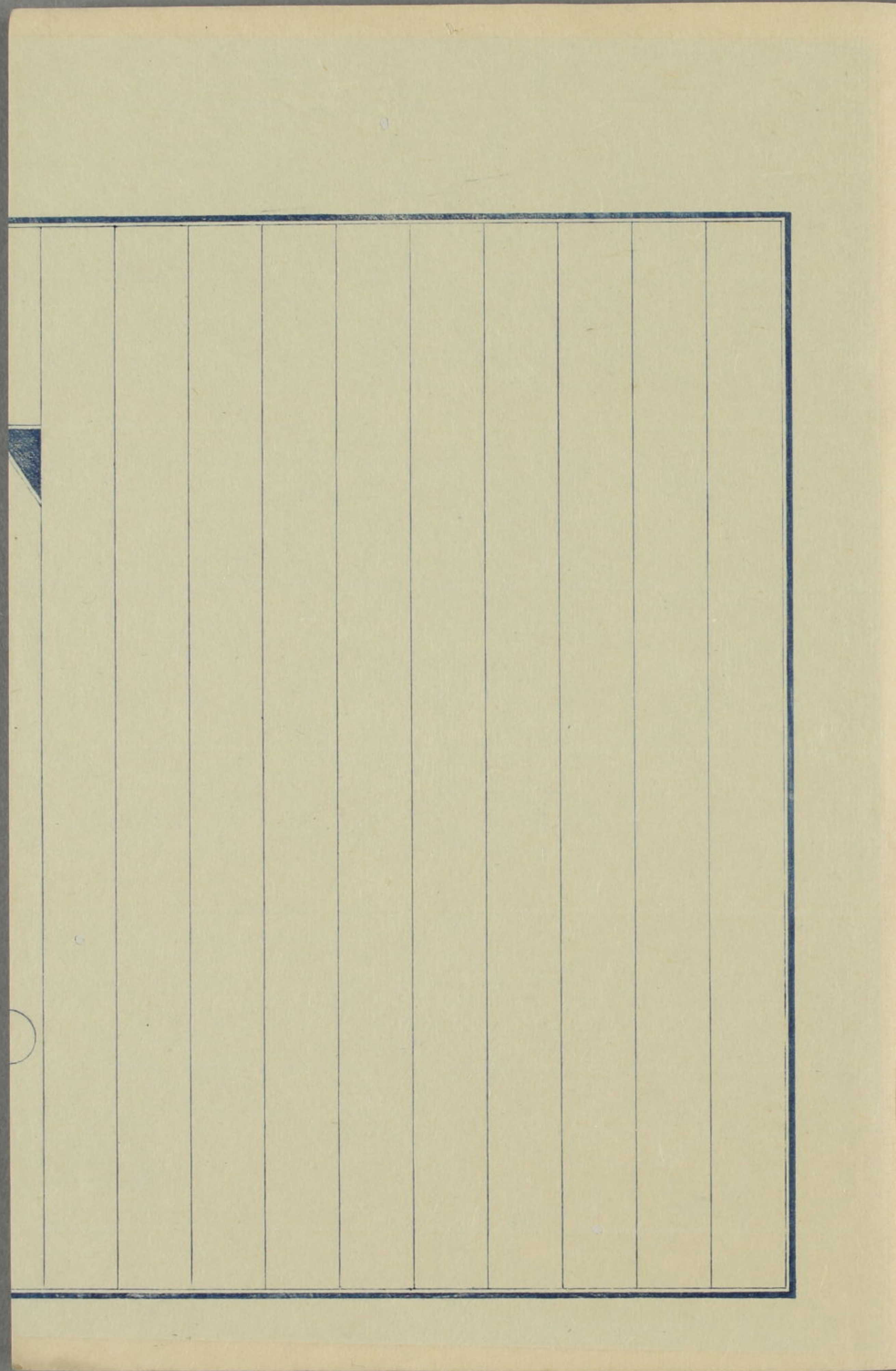
早稲田大学図書館  
文書 27  
A 7  
3





文久三年癸亥







以下  
4丁  
白紙



八月十三日

一 屋形樣以生時古供攝之御卷 内方舖前換之史  
因州柳河州柳正攝少打合者之九半時色御所之案  
内事御卷内但之京之候候者内之命  
一 鷹司白野之宮飛鳥并西傳奏議奏卷改國事  
之衆列坐

議奏廣幡大納言殿禮作達如也

今度為攘夷御祈願大和國行幸 神武帝陵  
春日社御拜暫御逗留御親征出軍議決為  
在之上伊勢 神宮行幸之事



右之通稱仰出其身早逝此後隨以游因州阿州由為  
家休前四候と始め是内之法候一日関白殿下  
亦取合ふて親類と移乃拜為前之於の因幡中將  
後之言建白と趣旨

攘夷之儀於關東等と因循姑息と打過攘夷之  
慮慮不覺微と今般 却親征行幸と御決断  
是移乃到と果臣等と情義不忍見堪痛と次第と  
直の取暇と賜り関白を馳下り大樹と諫の趣を攘  
夷と運の事と立到り疾勸躬盡力侍奉し貫徹仕  
る、是後四藩口心協力有身と此の力と以て攘夷

因幡中將之此の如し時高家長公は因州と袖と常、  
朝在れ之因州等と他直と及に言及に包たり 夫人官

と燒打過子攘夷之實初と在り可申旨 却親征

行幸之儀は輕く御於豫は務御之新代と速速

及、受 為家長公の事候 此時 直上中内府より進出と表  
行幸の事候月、初言は出(き)しは程候事候御

関白殿下事今日と申前議

是の事と云ふんじやふと百良と申す 幅原公は此の事候子  
申前居候事候

此の事候御事候と着け候と因幡中將と事候と傳言と因幡  
に親類と候候事候御事候事候御事候

相の家と建白と 敬感と斜と趣旨と為候

右四侯と此の退る為前と不憚威嚴の旨と毒棟



平泉の儲越石恭清の孫と傳書といはれ

ていふ事

一 隆平様とて 祝儀出拜 舟形白砂

傳書 舟形廻船 舟形廻船 舟形廻船

舟形明飛御 舟形明飛御 舟形明飛御

舟形明飛御 舟形明飛御

とて西陣の騷動

一 西陣は遠く大和屋に無事とて高島

舟形明飛御とて舟形明飛御

利を得るに舟形明飛御とて舟形明飛御

金砂の改とて一節、用はるる人々

舟形明飛御とて舟形明飛御

舟形明飛御とて舟形明飛御

舟形明飛御とて舟形明飛御

舟形明飛御とて舟形明飛御

舟形明飛御とて舟形明飛御

舟形明飛御とて舟形明飛御

舟形明飛御とて舟形明飛御

舟形明飛御とて舟形明飛御

舟形明飛御とて舟形明飛御

舟形明飛御とて舟形明飛御



加勢方數十之土藏多其跡程却月の高きは故より  
改の代所奉行多し者之れ集りて先は御方程也  
多し東子傍親改世中一物前柄也程敷也  
一の爲家也居る者多し是れ程也  
見少し一浪士之程行しは世の故也  
少中

八月十日 陰且雨

一と夫夫の姓頭六老早於り水清るる出を勤者  
御評議也  
一と此の古門の口達多故より急に古門の口本

一と道登坂孝騎陸頭利高居り以て此状 御前  
御令候也古門の口今も古津之跡出るとは組  
中階刻子弟中より古津の口より古津の口出るとは組  
古津の口侍組軍配頭一在り三手之頭物頭也切頭  
一在り御中より通るとは古津の口より古津の口出るとは組  
御能く御意也故に御前より古津の口より古津の口出るとは組  
君上清堂より出御迄は御前より古津の口より古津の口出るとは組  
古津の口より古津の口出るとは組古津の口より古津の口出るとは組  
古津の口より古津の口出るとは組古津の口より古津の口出るとは組

上意

何事も見聞し通切迫りし勢身極免物袖忠勤



不辱家名有公の如斯か

以時俄々一天の如き事あり大雨降り身如物属海濱  
四面揚音ありて友奴神々津事あり古松あり蒼天  
来沖三間に出せ 君前を於て流過なり

昭々たる内流多きと友為攘夷の神助大和國  
行幸御親征御軍議は為在るなり仰せ申され  
重たき事件より申出御承り遊就し重たき  
建白あり相成りて神の如く直に書けり  
誨之る言あり出せ御進

君上御建白は御事具實に成りし和らき為成り

より事起りし儀も先達より幕府より攘夷一條  
由請はは成りしと因循打首し于今横濱交易  
不れ止祈儀より西國鎮撫將軍より立て御親征  
もは為在り 處慮より申す 君上因州侯阿州  
世子備前侯由家より古来より 行幸且由  
親征より御神議誠心より忍入りて御事あり  
江戸表に在り 大橋 處慮より越りて是非公武  
此一和早速横濱打拂し御建言より及の如し  
許容をよりされりて我より由家より横濱焼し  
拂ひし中より給りし御暇を賜りて御建白より安



尤多儀子法思君之執事也  
時多志也下 法作出局  
得內事之取片分亦  
切之為自能之決心可改者  
當于不亦濟者自仲間切  
可改者改之也

一海也習水滋法花  
右膳為人 且輕之人  
日分也早追之 白海  
東海也登坂中道也

八月十日 曇

一三流登坂與人出立

一昨也達之趣口外段  
可然評法之或成登坂  
神文之事

神文之事

世度重事 上意隨  
此分可抽忠勤以仲  
他人之先頭也  
大小神祇真符  
法也如之聊也恨也



文三年八月十日

宮島熊冠血判

其江頭、御子、日神、夕血判

其上、御下、長子、梳、一日、一御、神、夕、連、島、血判

一松平、お、押、守、扱、下、廻、多、石、之、通、野、宮、侍、奉、

法直、贈、左、少、将

金、山、法、續、孫、重、頼、昨、昨、出、是、内、之、節、子、南

勝、越、之、後、被、中、上、之、御、之、忠、懼、依、之、色、退、出

阿、上、之、白、殿、中、乃、交、神、州、之、為、筋、沙、城

忠、之、中、上、之、事、以、後、而、不、及、其、後、乃、百、中

入、被、命、心、必、之、也、若、意、之、極、故、仍、之、勅、乃、乃、子

以、日、書

定、切

因、楊、中、將、殿

阿、波、侍、從、殿

未、澤、少、將、殿

侍、前、侍、從、殿

分、部、若、藤、殿

松、浦、豊、乃、守、殿

松、平、保、徳、義、殿

一、拓、身、白、殿、上、兩、侍、奉、行、朕、下、手、侍、從、湯、侍、當、口

道、吉、上、上、人、出

上、杉、澤、正、大、彌、一、昨、日、系、由、家、中、上、之、後、深、恐

懼、之、御、色、退、出、何、事、不、及、之、後、若、由、上、之、趣

故、書、仕、給、有、仕、居、者、皆、右、之、礼、所、特、言、以、知

代、中、上、



八月十日

上杉謙信大將家老

竹内美作

口物  
仕藤孫兵衛

右之通前之部下守保者お勤り致因州村より前文  
之役身御礼勤王及多傳奏難事より書出内  
旨方在到日申す事

の上の飛御も先身在るに大者出用状も持来  
成之殿あり十人頭四人も泣取遣之可也

八月十二日曇り夕方より雨

一平叔針生室前錦小路通より武士一人切腹致し  
風子も細一切あり

一合渡橋に交代し仰し見話何致し出平ふも  
いし此出の島良太郎山下彦次郎若黒谷一曾津  
館に就陣交し下屋敷混雜より此話申す  
先年此の如き川内鎗隊砲台檢分致し  
常の御多ありは免し御印否兼に槍術稽古  
林道美濃花より無意に槍に師匠の時侯見舞  
御の振ひは美濃花より無意に槍に師匠の時侯見舞  
京師しは御大機在りし百番通に屋敷黒水  
引移せし人馬混雜ありし御細一切あり  
それのみ事なりし御細一切あり



一可多川游川橋野多處、少字知、木坊法次身分、候  
 為問答、長尾、出歌、陳、此、身、分、正、程、出、奔  
 路、日、十、詔、當、通、電、子、功、材、持、取、上、苗、子、妙、能、於、多、歌  
 聊、久、權、多、一、身、分、心、差、出、身、分、

一可上、得、中、以、逢、方、候、身、分、故、隨、歌、刀、身、分、評、議  
 一可、官、宰、相、中、將、殿、造、價、為、傳、者、長、尾、尖  
 一可、上、上、仁、書、者、出、石、之、通

一可、知、先、行、欲、少、難、敵、覽、以、抱、分、少、思、良、為  
 一可、取、あ、了、身、上、先、進、以、他、進、身、分、月、廿、日、以、飛  
 一可、脚、中、以、得、大、二、百、里、之、遠、道、一、身、分、上、為、市、川、支、取、也

一可、是、身、分、連、名、是、故、候、分、是、身、分、未、有、以、此、身、分、  
 一可、取、上、紅、行、等、御、拜、御、親、統、之、身、分、漸、以、御、出  
 一可、所、以、難、以、大、用、之、指、之、身、分、是、身、分、手、御、之、身、分、御、  
 一可、間、開、之、身、分、中、御、之、身、分、心、分、心、分、御、造、  
 一可、事、然、上、身、分、少、身、分、之、身、分、是、身、分、御、出、  
 一可、於、身、分、御、取、了、身、分、御、出

一可、月、中、二、日  
 一可、上、杉、彈、石、方、御  
 一可、學、院、御、出、長、尾、御、出、御、出、御、出、御、出、  
 一可、通、之、身、分、御、出

大和國紫園山銅鉄塔之御出御出



先王助之... 此其内也... 矣地... 牛... 中...

一層... 他... 薩... 教... 款...

八月十七日晴

一... 六... 沙... 尤... 不... 也... 况... 進... 確... 聊...







御階より進達如し

當時勢切迫今度重天に御建議あり在り付  
御態之上意を承りて事成り身存り  
指仕居り事終り依り見出せ誠を以て申上り格は仰  
付深き有感佩の廟堂に高嶽微塵に非可容喙  
を知り淺見中立ち六千萬心懼に御以得共  
は方之事件に御家より榮辱を存り以候に御  
之憂慮仕憐れなきに歡建言仕仰 幕府に  
出處置因循姑息を相見得共昨秋少改革  
に御將軍出上洛に御大曲御執行は好む事

あり得ず一橋公廣御之家方始り白未了御事

敵慮出違拜不此為成はる余身事情は在  
りし如く事終り難難之際に公威に聞かざる  
出周旋は好む事誠を存り憂慮候に御合吉  
朝廷に正威光と此を有御東に御下向此を成り  
御四家より力と為容易に御初御給下當此に  
御力より御況や皇國西南東之御力と為  
以此出御中より御朝廷より御力と為  
御之公武之知に其を聞き御國威出更張外  
御掃攘は御心より御速言に御事御







と譽れし君は細一と居辭し忠實心なきは  
此家と云ふ横濱打拂之先鋒に在る向ふ成り  
自らの能く術計を施すは以て敵を以て其の  
關東に下向し事ハ此家深き思考の法を以  
たし若し一旦此家及言石乃其非此下向成る事  
一西國鎧撫將軍と書及此の情事を以て其の上  
重き御偏首と御取戴し成階の親を以て初  
使此作蒙り此向道に事東下は游方此段を伏  
願ひ右一傑始終奉事と考し次第愚考に任じ此  
偏り此家之大事然而出むに不忠之義を以て得

の聊々忌憚る不憚建言信誠謹白

文久三年八月十七日 宇島吉久 實印

涉海の間は差出た交大目附若林作兵衛殿より書

此所在に成る事申すに 經名手格名に上白行候

此狀因州旅館に密事あり

因州藩士落書激し筆劄一件

御用代 里部 程之助 若黨一人を負

表用代 高澤 省巳 舟杉原を負毎日死す

早川 卓之進

加藤 十次郎 若黨一人即死



右之者共當的輔弼之職之在立上之在庶政一  
主人勤王之志之阻抑一遂之天下之活名之蒙らぬ  
以順不順之志之反何と尸后也加斬戮中ハ年也  
種之御守也下之在立之御守共書之右四為之  
可為之在立之御守之成不夜且追之願出之御守  
有之御守之在立之御守之御守察之御守御守  
歎歎以上

八月十七日

御間半六

清水七之丞

河田九之馬

河田清之丞

吉田舍人

塩川芳次 是立八之丞

吉田源之丞

温彦平之丞

温彦金之丞

山口謙之丞

加次有之丞

中井範之丞

伏無之丞

北見和之丞

伊吹布之丞

大西清之丞

中野清之丞

田長白之丞

新谷恒之丞

大田桂之丞

加藤保之丞

以上三十二人



